

農学生命科学部

第20回 研究推進セミナー

【第34回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

生殖細胞の形成と脱分化を制御するエピジェネティック機構

演者：松居 靖久 先生

東北大学

加齢医学研究所 教授

日時：平成29年12月21日（木）

17:40～19:10

場所：弘前大学農学生命科学部402室



生殖細胞は配偶子に分化し受精をすることで、次世代個体を作り出す個体発生全能性を持つとともに、哺乳類の場合は容易に脱分化し多能性幹細胞へ変化する性質も持っています。このような生殖細胞のみが持つ性質には、DNAと結合しているヒストンタンパク質の修飾による転写制御に代表される、エピジェネティック制御が重要な役割を果たしています。今回のセミナーでは、マウスの胚発生初期に多能性幹細胞から始原生殖細胞が形成される過程と、始原生殖細胞が多能性幹細胞への脱分化を経て奇形腫に変化する過程に係わるエピジェネティック制御について、わたしたちの最近の研究を中心にお話しします。

主催：農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室

小林一也（内線3587 kobkyram@hirosaki-u.ac.jp）

共催：研究推進委員会 学部後援会